

審判・監督会議資料

○本大会は国際柔道連盟試合審判規定、国内における「少年大会特別規定」、「日本中学校体育連盟柔道競技部主催大会申し合わせ事項」に準じて行います。

○試合時間は3分、勝敗の基準は一本、技あり、有効、僅差（指導差2）とし、ポイントの差がない場合は個人戦はGSで勝敗を決し、団体戦は引き分けとする。

1. 審判規定上の確認事項

- (1) 今大会は一審制で行い、副審と審判委員が映像を確認しながら試合を進める。
- (2) 「指導」は受けた回数のみが表示される。技によるポイントのみがスコアとして表示される。個人試合においてスコアが同等、または「指導」1差の場合、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア）を行う。延長戦において、最初に技によるスコアを得たとき、または「指導」の数が上回ったときに試合を終了する。
- (3) 副審、審判委員と主審でスコアが異なる場合は一度「まて」をかけ、副審と審判委員が映像で確認しインカムで主審に伝える。（変更なければ「はじめ」のみ）
- (4) 試合者が頭部もしくは背部（脊柱）に強烈な衝撃を受けたと判断したときは、救護係を呼び診察を受けさせる。大会中に脳震盪を受傷した者は以後の試合に出場できない。
- (5) 両者反則負けになった場合、勝ち上がれない。
- (6) 「柔道衣の直し」「髪直し」は1試合にそれぞれ1回認められる。柔道衣の乱れについて、帯から裾が出ていて直そうとしない、帯がゆるくなって直そうとしない場合に2回目から「指導」を与える。また、髪直しについても2回目から「指導」となる。ただし、「まて」「はじめ」の間に直すことは認める。時間稼ぎのような形になった場合を1回とする。柔道衣の乱れを「まて」の間に戻りながら直している場合は、直させてから試合を再開する。
- (7) 無理な巻き込み技を施すことは「指導」となる。「無理な巻き込み」とは、釣手の崩しや軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。また、最初から釣手を放して払腰などの技を仕掛けるような場合もこれに該当する。

2. 審判規定運営上の申し合わせ事項

- (1) 審判規定より安全を優先して、危険と思われる場合には、機を失せず「まて」の宣告をし、傷害事故を未然に防ぐように努める。
- (2) 「指導」を与えるときには確認の必要はない。ただし、「反則負け」を与えるときと延長戦（ゴールデンスコア）で「指導」（軽微な違反）で勝敗が決まる場合は副審・審判委員と確認して決定する。

- (3) 副審と審判委員の合議（映像確認も含む）はできるだけ短時間で行う。互いの意見を確認し、速やかに決定して主審に伝える。場合によっては主審から審判委員に意見を求めても良い。
- (4) 個人戦では一人の選手の試合が続く場合、試合の間に3分間程度の休息时间をとる。（正規の規定では10分間だが大会進行上、休息時間を短縮する）
- (5) 軽微な負傷や損傷（爪の破損や急所の負傷、鼻血等）の手当は救護係が行う。その場合は副審が救護係のところまで選手を連れて行く。止血をした場合は、同じ部位の3回目の出血の時点で相手に「棄権勝ち」を与える。
- (6) 審判委員規定では「小さな判断の相違程度は介入すべきではなく、審判員を尊重しなければならない」とあるが、本大会では審判委員が審判員の判定に疑義があるときは試合を中断して主審に確認することもある。（その根拠には映像を必要とする）また、審判員から意見があるときは審判委員に歩み寄って確認することもできる。
- (7) 柔道衣検査は各会場の審判員で行い、問題があるとき（大きさ、汚れ、破損等）は各会場の会場主任が判断し、審判長まで報告をする。（女子選手の髪は襟にかからないように結ぶ）
- (8) 監督（コーチ）や地域指導者が禁止されている行為を著しく犯した場合、審判員が合議の上、口頭で注意をする。1回目の注意で改善されない場合は、審判員は本部へ報告のうえ、試合が終了するまで試合場フロアの外へ退去させる。
- (9) 1回戦からケアシステム（映像）を導入する。
- (10) 柔道衣の乱れについて、紅白帯は含まないこととする。
- (11) コーチのふるまいについて、IJFでは団体戦において1人の選手につき2度目の注意を受けた時に監督は退場となるが、今大会では1つの団体戦が終わるまでに2度目の注意を受けた時に退場とする。（例：先鋒で1回、次鋒で1回で退場）
- (12) 今大会では監督・コーチの映像確認はできないこととする。映像はあくまでも、審判員が公平に試合をさばくためのものとする。

3. その他

- (1) 審判は、時間で区切ったり、3～5試合ずつでの主審交代を基本とします。会場主任の指示に従ってください。
- (2) 所属の選手が敗退しても帰らずに会場の仕事を行ってください。どうしても帰らなければならない場合は会場主任または副主任に必ず声を掛けてください。
- (3) 試合終了後、会場主任は短時間で反省会を行いますので本部席前にお集まりください。
- (4) 審判についてはブレザー、スラックス、紺または黒のソックス、エンブレム、ネクタイを着用してください。（会場係等の先生方はこれに準ずる服装でお願いします）